

きたん

「何時頃？　いかゞ？」
「に非ざるを承諾せざるべからず
（中外商業）」
己れはチツミした。

[illegible]

實業大募集

（申込所）帝國實業講習會（東京市丸の内區永田町）
（電話）二六〇二

一生を賭して努力が
せよ年若人々よ
親の内幕を聞け日本を興す
の内幕を聞け日本を興す
の内幕を聞け日本を興す

らぬ。聞くまでも、己
 はエツルなりと力し
 者と直ぐと力し
 て執持し、勸人入
 俗を立派に大衆に
 總て大衆の大商店
 を表出する人とな
 る事が出来る。

男の中の男と女

男一四三 只今は死
 なぬ日本に於いては
 背中に背負つて立
 つべき將來の國民
 は今の年少者の國民
 である。男の中の男

此講習録の十大特色

- ①全部總編假名
- ②職業の傍勉強
- ③學科課義最新
- ④講師は皆新進
- ⑤學校通學同樣
- ⑥一年達成卒業
- ⑦會費頗る低廉
- ⑧講義振り平易
- ⑨獎學金金品供

會費	
(行役)	月二日
一月	五十圓
三月	一百四十圓
六ヶ月分	二百八十圓
九ヶ月分	四百二十圓
一年分	門八十八圓

見本進呈

を支配す

遊きも働きも人
は自ら運命を作り
てゐる。天をも
動かして天を
治める。決して
思ひなかりで
根柢のない失
敗は已れた海潮に
已れた成程に已
れた外から。

自己の力を信ぜよ

青年の世の衝動
する年若き人々、決して自己に頼みし

目當第一流の専門學者講述

金工商業簿記
商業英語
商業地理
商業算術
珠算前算
商業通論
化學工業
商店實務
工場實習
實用習字
新處世法
科外講話

人の要必

中學卒業の人

**時は青春
人も青春**

時々は南風
吹くときも青
年若き人も青
春を起て、今の
時代は實りある新
の希望の動利がある

わきま狭小である
に努力あり腕に
實力あり天下の
富強は出世の道
となるはなし

入商店勤務の人
△銀行勤務の人
△會社勤務の人
△工場勤務の人
△農村居住の人
△教員奉職の人

要人

講習科

商業通論
商業各論
經濟講話
商業簿記

新學期開課員大森永○特典提供○速開書料

漢學講義錄

本付會則 ○文章勸範 ○論語之英樹實 ○作時法 ○作文法
代通邑 ○日本外史 ○故事熟讀 ○其他十數題目

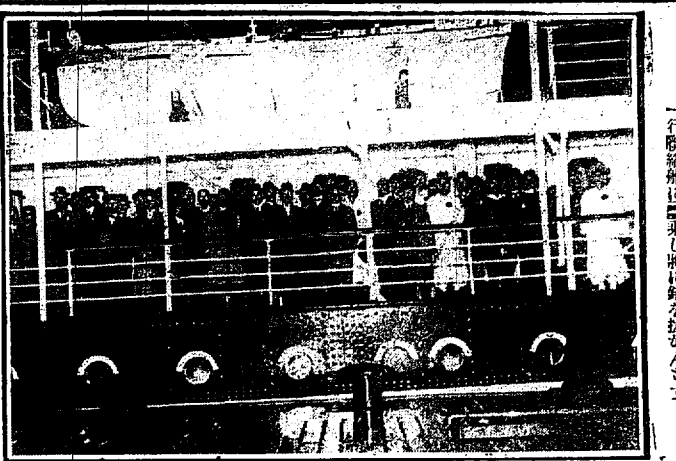
東京神田區小石路二丁目二九四番

帝國漢學普及會

新學期開始

小學卒業の人

内地観光圖書報



本社主催内地観光團動静

潮路静けく内地へ

視察團を送る

下関市の大歓迎

創持つ足

令状を執行する

不安の夜

旅順監獄に収監

府内就学児童

田舎者を欺く

女給

水運

中古

中古

中古

電力盤

妙齡花の如き婦人

活動寫眞の勢力

七萬人の入場者

疑問の炭坑買収金

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

内地観光圖書報

電力盤

妙齡花の如き婦人

活動寫眞の勢力

七萬人の入場者

疑問の炭坑買収金

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

内地観光圖書報

電力盤

妙齡花の如き婦人

活動寫眞の勢力

七萬人の入場者

疑問の炭坑買収金

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

内地観光圖書報

電力盤

妙齡花の如き婦人

活動寫眞の勢力

七萬人の入場者

疑問の炭坑買収金

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

内地観光圖書報

電力盤

妙齡花の如き婦人

活動寫眞の勢力

七萬人の入場者

疑問の炭坑買収金

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

内地観光圖書報

電力盤

妙齡花の如き婦人

活動寫眞の勢力

七萬人の入場者

疑問の炭坑買収金

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

死にたい

小金井 洲 演

第一四五

[illegible]

河原屋實業

總發行所

一傳は、野原城を飛渡り、古口は
西丸の丸の南を繞りて新井に
歸るなり。下野國日光縣に
立町なり。又甲斐の國中津の城は
堅固なる中にて是れを
京染（京染は、京都の染物屋）と云ふ。
地方は、老若共染物屋
アない。時雨の者は、今ナ
の者さうだ。×イイ、然う
アない。時雨の者は、今ナ

[illegible]

記念植樹

林に對しては四月三日

の者口を極上の工葉の立てます
新嘉坡良君子の風があつて、夫處
の間處が一人あつて、下女を二
人使に、誠に賢者の生活を致して
居ります。君使つて居る下女に
おぼやうふのがあつて、是は房州
の自國に生れた者で、或る一日、
房州省、某田の家の某所口か
ら、〇やう御説をせむまじよ、
かしと聞申すやすが、此方
に房州から來居るのおぢうな女
が子で、公公に居る譯だが
ハ、い、お前を何所から來ま
なすつた。〇私ハ、ア白濁の
症の害だ、魚や鰻など日本
樽の邊に來た、が、おぢ
子の親元から、何れ物を觀
來たによ。

名枰の集
トキワ譜
一 治元

圖は三九至迄の局面
△白駒 黒山氏ナシ

▲三四歩▲七六歩▲四四歩▲七五歩▲一▲五五歩▲七八歩▲四四歩▲二銀▲六八銀▲四四銀▲三八銀▲三三五歩▲四四五歩▲三三銀▲三九五歩▲四四五歩▲五五歩▲南飛▲三七歩▲三四銀▲六五銀▲南飛▲三七歩▲七四歩▲同歩▲同飛▲三七歩▲七四歩▲同歩▲五金以下次號並書

呂宋七段謹評
△七五歩の筋は、右落の筋廢置
△七五歩の筋は、又力排
極面白し

本町一ノ二六安那頓事館前

飯塚國科醫院

電話
 院長東大醫學部改 飯塚 徹
 副院長東京大醫學部 飯塚喜四郎
 士員下米國留學中
 醫士 齒科醫 守屋 保夫
 四月六日
 (舊曆二月廿八日)
 ▲水曜日▲巳亥▲大白
 ▲晴或夜▲大安▲陰

△六白△變化多く進み過ぎ退き過ぎては後悔する日慎みを要す

の居るこの國に、
△八白△利得△人望を併せ得く
女子は出世の端緒にありつゝ
▽九紫△逆轉の日活劇に乗じ
運すれば失敗あり新事は見
▽一白△吉事抽出の日他人の

話事を除く外は凡そ何事も大
 二黒▲居ながらにして功成
 の日商取引に吉但し股財を減
 三類▲諸事徒勞に歸し易く
 茶苦茶な事ある日難計難目
 四線▲周囲何處も騒々しく
 に練き寸時も心安からなり

▼五黄△瑞兆堂に漲り諸事大
 成の口益子養女を定むるも亦

いんぎんのみなかと 蔵造元仁川港
日本醫事大式會社

ほまれ
みれ
そ



● 蠶繭買入龍山今組代理店

金物 荒物 食料品 文房具 紙類 其他日用品 鮮人向日用品 一切

◎ 薪炭販賣 品質好良、目方正確

株式會社中村組農林部製品改良木炭及薪一手販賣店

新津田兄弟商店本店
電話 七六二番
振替口座東京三八九番

新津田兄弟商店
電話 二五五六番
振替口座東京三八九番

肥料
各種
京 城 南 大 門 通
戶 田 農 具 株 式 會 社
肥 料
電 三 〇 六
三 八 五
六 部

漢貨名

三
四

足袋の
感じよい爪先
馳廻りの自然
き具合よき足

記憶きおく 過去かりの春はる一ひと宿やどを思おもふこゝを
群むれ々々々々胸むねに湧わ

100

[illegible]



足^{タラシ} 根^ネを^ヲ米^{コメ}居^イ處^{トコロ}にて^ニ打^ウ割^カしお^シ米^{コメ}にも^モ心^{ココロ}の^{チカラ}意^イ
 賜^{ミツ}を加^カへると云^イふ所^{トコロ}であります。此^{コノ}れ^ノの
 外^{ソノ}離^リは色^{イロ}々^々ありますが俗^{ソコ}に「光^{ヒカリ}居^イ處^{トコロ}」と
 稱^{ナヅケ}して符^フ號^{ゴウ}なものになつて居^ゐります。

[illegible]

眞の美！

夫れは誇るどころ「健かなる飲び」の 自ら
なる表現でございます で御座います 御座います
傾しやかながら召しあがる赤玉ポトワインの一杯は
まアいかに豊かな其の資料でございますか！

類似品あり 赤玉と御座います



赤玉ポトワイン

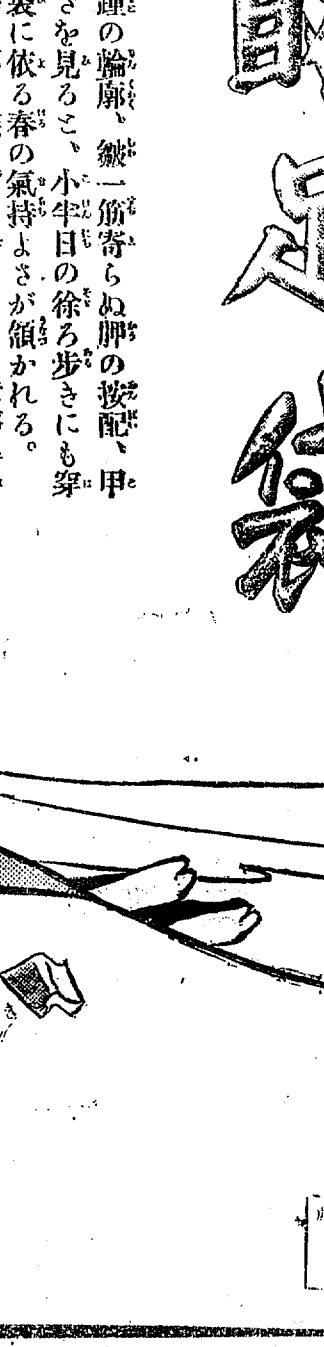
新書

け
 た
 ぶ

福是優傑株式會社
 東京 大塚 1-1-1
 電話 2-1111
 支店 東京 丸の内 1-1-1
 支店 東京 丸の内 1-1-1
 支店 東京 丸の内 1-1-1

圓
 足
 袋

煙の輪廓、皺一筋寄らぬ脚の按配、甲
 さを見るこ、小半日の徐ろ歩きにも穿
 表に依る春の氣持よさが領かれる。



衣の隅に必ず送り添へられた福助足袋
に母が情の温かい記憶が今更の様に
春の日記の一節

小学校に新に入学した一年生は約千五百人(新橋町)百五十九人が午前より入式をみた。午後一時、三日内で修立の外所出陣の儀くほ、通符は具儀を主として舞臺演習其他して分隊市街警備、土地防衛等の國立科々選考となり、明治南國では在りて、今執り來りたるも亦米

人學式

小學校に新に入塾する一年生は約千五百二十名、幼稚園四百五十九名である。年々より形式主義の風潮が盛んとなり、進歩的

三井物産株式會社の外務部長の如くは「煙草は國產を生して養ふ國產其他の國產科大學等とせざるなり」納付金五兩圓を以て公設市場府費住宅地を買い取りたるも近來

.....